

## スポーツ導入における ICT 導入の実態調査

私は大東文化大学のラグビー部に入部している。私の大学のラグビー部では「Hudl」というアプリを使用している。しかし他の大学などに試合をしに行った時などに他大学が多くの ICT 技術を導入していることを目の当たりにした。残念ながら、大東文化大学ラグビー部とは大きな違いがあると感じた。多くの ICT 技術を導入している大学は、強豪大学といわれている大学が多い。なぜ強豪なチームはどのような多くの ICT 技術を導入し、どのように活用しているのか疑問に思った。また、ICT の導入はラグビーに限ったことではないはずである。ラグビー以外のスポーツにはどのような ICT 技術があるのかにも興味がある。

ラグビーにおいて ICT 導入によってもたらされる効果はとても大きい。しかし ICT が導入されたからといって強くなれるのではない。ICT 技術がそれほど進んでいない大学でも、強豪校はあるからだ。しかし強豪校になぜ ICT を導入しているチームが多いのか。それは大学からの資金支援もあるが、導入している大学はしっかりとした結果をしている。またその大学を卒業して日本代表で活躍する OB などからの寄付があるから最先端の技術を利用できているのだ。ICT 導入が進んでいない大学が ICT を導入するには時間がかかってしまう。支流になってきている「ドローン」や「GPS」を使用するには専属の技術スタッフが必要になるからだ。そのため ICT 導入を検討しているならば、いち早く行動に移す事が望ましい。人材確保や金銭面で難しい面もあると思われるが、導入のメリットは大きい。

スポーツによって導入されている ICT は様々なのだが、集団スポーツと個人スポーツによって、ある程度分かれている。集団スポーツは個人の走行距離などの測定をおこない、フィールド全体をとらえて、情報をだすことのほうが多いが、個人スポーツや野球などは一人に特化して分析をおこなうことのほうが多いことが分かった。またスポーツにおいて審判が下す判断はとても重要な役割を果たしている。その判断に誤りがなくなるように様々な ICT が導入されたことにより、誤審の割合が大きく減ったのだ。しかし誤審がなくなる代わりに、起こってしまうデメリットもある。今後どのような改善をしてデメリットがないようにできるかが今後の大切な課題であろう。